

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス デフキッズ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 1月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日本手話による療育を行っている。またろう・難聴のスタッフが多く、ろう者主体とした施設となっている。	手話や指文字など、視覚的コミュニケーションを通して、自分の言いたいことが伝えられる、情報が分かるということを大事にしており、そこから自信を持つことができるようサポートしている。	より専門性を高めるために、社内研修を充実し、職員の支援の質や知識を高めていく。また、外部研修に積極的に参加し、支援の技術や知識を学び、実践に活かしていく。
2	異年齢児との幅広い交流。	一日開所時に異年齢交流(小学生から高校生)を主軸としたグループ活動の企画を考案している。また児童生徒と一緒に意見交換をしながらその日の活動を定める時もある。幼児も加わり、平日の自由遊びでは一緒に活動するときもある。	上級生が企画を担う機会をさらに増やし、下級生への責任感や慈愛を育む活動へつなげる。上級生が下級生のロールモデルとなり、郷中教育のような相乗効果を生む活動をする。幼児がいることで力加減の調整ができるとともに、お互い慈愛心を持ち、コミュニケーションの幅が広がる。
3	専門性のある外部の講師(スーパーバイザー)を招き、子どもたちへ専門性のある支援を行う。	絵本の読み聞かせについて、児童発達支援が始まり、幼児も児童も絵本を通して表現力や内容の把握がさらに高められるようサポートしている。	スタッフが表現の質を確認したり学ぶことで、専職員の支援の質や知識を高めていく。また、研修に積極的に参加し、支援の技術や知識を学び、実践に活かしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ろう重複に対する専門性を持つスタッフが足りない。	ろうだけではなく、発達障害や知的障害も持っている幼児児童生徒に対して、専門的な支援が難しい状況がある。	スーパーバイザーの支援を受けることで職員の研修や保護者の理解を深めていけるような様々な視点からアプローチできるようにする。
2	緊急対応時のマニュアルや避難訓練の実施など、全保護者、全利用者に周知、説明することに時間を有する。	幼児・児童・生徒によって来所曜日が異なるため、全員が避難訓練を経験することが容易ではない。また保護者へ内容を伝えるにも足りない部分がある。	来所人数が多い日を確認して、避難訓練を計画していけるように努力する。また参加できなかった利用児童・生徒に対して避難訓練の実施日や実施後の内容、様子等を丁寧に伝えていく。
3	部屋の広さや施設の場所について。	利用する幼児・児童・生徒の人数によっては手狭に感じることがあり、また建物も2階であることから安全について懸念している	利用人数が多い時や活動に合わせて公共施設を使用するなど、対応を考える。2階であることから安全面を考慮して児童生徒が上り下りするときはスタッフがそばに付くよう配慮する